



平成 28 年 №55
初春 **ねんが**号

あきばさん

発行人 / 発行所
秋葉山 新井 寺
272-0144
千葉県市川市新井
1 丁目 9 の 1
電話 047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseiji.jp
http://www.shinseiji.jp
郵便振替 00150-2-282968

年頭のごあいさつ

心から心へ正しい信仰心を

当山住持

謹賀新年。改歳の令辰にあたり、謹んで当寺檀信徒・秋葉講中の皆様、坐禅会・写経会・梅花講の皆様、そして有縁無縁信心の願主、すべての皆様の福寿ご多幸を心よりご祈念申し上げます。

昨年は、曹洞宗の両大本山のひとつ大本山總持寺様の二祖、がさんじょうせきぜんじ峨山韶碩禅師様の六五〇回大遠忌の報恩行事が、曹洞宗一丸となって修行されました。まことにしょうえん勝縁深き有難い一年でございました。

峨山禅師様は、身をもって、心をもつて私たちにいちふつりょうそ一仏両祖様（一仏はお釈迦様、両祖は大本山永平寺ご開山の高祖道元禅師様と大本山總持寺ご開山の太祖瑩山禅師様）の正しい信仰の世界を今日にこんじち嫡嫡相承てきてきそうじょうくださいました。皆様方も、自分自身の世界や人生の中にあつて、ご先祖様や古き尊い方々の教えを「こきょうしん古教照心」して、

肝に銘じ魂に銘じ、大切に継承されたいと思えます。凡人は、日常生活の中で、自己中心的な考えや行動をもって生かされがちです。しかし、それでは自分自身の理想や願行には、自業自得、悪因悪果として逆行してしまいます。人間の生き方、その中心は心であるが故、心を正しく修養し、コントロールしてこそ、正しい信仰心や人生観もその結果、生まれてくるわけです。

大本山總持寺様では、一仏両祖様、峨山禅師様のみ教えを正しく、代々にわたって継承する「そうじょう相承」をスローガンとして、昨年の六五〇回大遠忌の報恩行を盛大に無事円成されました。そして、全国の多くの皆様方に、我われに、この上ない法悦を与えてくださいました。

どうぞ、皆様方におかれましては本年はいま一度 原点にかえり、一仏両祖様の正しい信仰心やご先祖様や古きよき方々の教えを尊い「**古教照心**」として嫡嫡相承てきてきそうじょう（継承）され、心豊かな、平和な年になりますよう念じ、年頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞ、ご精進を。

合掌

あけましておめでとうございませう
今年もよろしくお願いいたします



戊山本崇文

(野田市 淨禅寺住職・戊とし)

皆様、明けましておめでとうございませう。この千葉の地で皆様にお世話になりました。二十年前、平成八年は、アトランタ五輪があり、「ルーズソックス」や「たまごっち」が流行った年でした。懐かしいですね。当たり前ですが、この年に生まれた方は二十歳。私も皆様も〇〇歳+二十歳。貴重な経験もさせていただき、たくさんの思い出、出会いや別れもありました。ただし、この二十年で気候がだいぶ変わったように感じます。

春は花 夏ほととぎす 秋は月

冬雪さえて涼しかりけり

一生懸命
寅松井純照

(松戸市 龍仙院守塔・寅とし)

あけましておめでとうございませう。

来月には、「♪四十一歳の春だから」
『元祖天才バカボン』エンディング曲・
作詞 赤塚不二夫) ♪♪の「バカボンの
パパ」の歳ともお別れです。

この歳になりますと、褒められることはおろか、叱られることも少なくなってきました。なんでも出来て当たり前な歳頃とでもいいたしうか。

しかしながら、いくつになっても、初めてのことや慣れないこと、不安なことなど、数多おこるものです。ひとつのこ
とに向ってわき目もふれずに頑張った。
懸命に頑張った。けれども、思うような
結果が出せないこともあります。そんな
時でも、そこに少しでも自分が全力を出
し切ったすがすがしさがあるならば、私
は『これでいいのだ』と自ら、及第点を
だすようにしています。私にとつてバカ
ボンのパパの決まり文句『これでいいの
だ』という言葉は、現状をそのまま素直
に受け入れ、次のステップへと導く、反
省と励まし精進の言葉です。

道元禅師さまの「ほんらい本来の面目」という
お歌です。すべての人がもともと持っ
ている自然のままの心性。しんしょう日本の四季
折々の本来あるべき真実の姿です。しか
し、地球の平均気温も上昇。正に温暖化
です。皆さんの口から出る言葉は、「この
冬は暖かいね」「昔は物凄く寒かった」。
当たり前であったものが、当たり前でな
くなってきたしまったのです。さらには、
当たり前でないことが当たり前と考
えるようになってきてしまいました。未
来の生きとし生きるものが平和で幸
せでありますように。私共が心に必ず留
めておかななくてはならないことです。

当たり前前に訪れることに感謝の念を
忘れずに。あれから二十年。〇〇歳+二十
歳になったのは当たり前のことですが、
今年も新年を迎えられたこと、皆様と共
にいられることに感謝し、日々精進して
まいります。

本年も、どうぞ よろしくお願いいた
します。

合掌

今年は何年。きつと何歳になっても手習いはあるのでしょうか。

「木から落ちた猿」になっちゃってしまわぬように、猿の好奇心を見習って何ごとも、ひたすらに。もしもの時には『これでもいいのだ』と及第点をもらえるように、一生の命を懸けた人生設計を年頭にかかげたいと思います。

どうぞ、本年もよろしくお願いいたします。



思いやりと感謝の気持ちで



松井百合子

(当山 寺族・丑どし)

新春のお慶びを申し上げます。今年は何年。方丈様の干支です。

「さる」というと、日光東照宮の「聞か猿・言わ猿・見猿」の「三猿」を思い浮かべる方も多いのではないでしょう

か。本来の意味は、「子どものとき、世の中の悪いことを見たり、聞いたり、言ったりせず、素直なまま育ちなさい」という教育論的な説と余計なことは見たり聞いたりしても、むやみに他人に言っただけいけないという戒め、大人になってからの処世術的な説があるそうです。

現代人は、自分に関係のないことは知らんぷり。できるだけ関わらない。「見ざる・聞かざる・言わざる」です。自分以外のものや人に無関心であるばかりではなく、いつでも「わたし」が中心。自分さえよければいい。私自身も、反省しなければなりません。ひと昔前の日本人は、そうではなかったはず。見ること・聞くこと・言うこと、日常生活の中でお互いに心を運び、思いやり、お互いに「ありがとう」という感謝の気持ちをもっていたように感じます。一人ひとりが、この気持ちを大切に暮らしていくところに、あたたかく明るい日本の未来があるように思えてなりません。

あらためて、思いやりと感謝の気持ちを大切に、この一年を過ごさせていたいただきたいと思えます。

合掌

「フラワーマジック」

松井礼子

(花屋秋葉山店主・卯どし)

お花には「魔法の力」があると思うんです。お花には、楽しいとき、悲しいとき、私たちの気持ちに寄り添う優しさがあります。お花には、言葉に表せない気持ちや人を届けてくれる温かさがあります。そして、花と一緒にいると、不思議と元気になります。それらの力をわたしは「フラワーマジック」といっています。

その魔法を体験していただきたく、昨年の秋から「お花の会」をはじめました。お花をさわることで普段感じられない非日常を体験したり、たわいのない話をする中で和やかな気持ちになったり、心豊かな時間を皆様と共有しています。今年も季節のお花を使い、花束・アレンジメントなどをつくる「お花の会」を行いたいと思います。ご希望に応じて、個別にスペシャルレッスンも可能です。お花あわせがわからない方、お花の組み合わせを知りたい方、季節を感じたい方、楽しくおしゃべりしたい方・・・など、皆様のご参加をお待ちしています。

花屋秋葉山は、今年もフラワーマジックを使い、皆様のもとに感動と幸せをお届けします。今年も、どうぞ、よろしく願います。

お花の会 「春の花束」

- 一月十九日(火) 午後二時
- 費用 二千元
- (花材代、お持ち帰り袋・おみやげつき)
- もちもの 花ハサミ
- ◎ 参加希望の方は 十五日までにおてらにお知らせください

* お墓参りのお花は常時ご用意しております(一対千六百円)。ご希望の方は、お気軽に、おてらの玄関にお越しくださいませ。

* 一対 千六百円のお墓参りのお花以外は、**完全予約制オーダーメイド**でおつくりいたします。配達も行なっております。

〈ご法事のお花・ご自宅のお花・御祝のお花・アレンジメント・ブライダルブーケ・鉢物・プリザーブドフラワーなど〉



「やわらかくて弱い」と

「ひたぶる」に



松井量孝

ただ好事こうじを行ぎょうじて前程ぜんていを問うことなかれ

『従容録』第八則「百丈野狐」

結果を問うことなく、ただひたすらに行じなさい。最近の自分をふりかえったときに、思うことばです。自分にできるのだろうか・・・、結果を恐れ、未来を背負い込み、考えても仕方がないことをあれこれ考えて、ついには何もできなくなってしまう。いろいろなことを考えれば考えるほど、頭もからだも心もかたくなります。鏡を見れば、からだじゅうに力が入って肩が上がっている姿が映ります。吾我わたくしの念おもいにふりまわされてる自分です。

やわらかくて弱いというのが、実は強いんですね。変に我を張らなければ折れることもありません。

玄侑宗久

からだも、心もかたい。気が短く、気難しい。融通も利かない。身体力も精神

力も修行力もまずしいにもかかわらず、「変に我を張っている」自分に気がつきません。変に我を張ってしまうのは、すべてが未熟な証拠なのだろうと思います。

根拠のない思いこみや自分勝手な

吾我わたくしの念おもいをはなれる。考えるということとは、「ひたぶる」ということが足りないのでと思います。よき人の教えのままに、よき人の行持のままに、縁に随って、結果を問うことなく、ひたぶるに行なう。人にも、ものにも、自分にもやわらかく、柔弱に向き合っていく。自分を忘れるほどに没頭して、ていねいにひたすらにつとめていく。その結果、どんなことが待っていていようと、どつしりと構え、淡々と受け容れていく。それが「縁に随う」ということなのだと思います。縁に随う中で出会う、心が折れるようなことこそ、柔弱性や弾力性を育ててくれるのだらうと思います。

身心をたくましく、この一句に参じてまいりたいとおもいます。

本年もどうぞよろしく願います。みなさまのご清安をお祈りいたします。

合掌

(当山 副住職・編集小子・未どし)

